

2017 年度 センター試験 倫理、政治・経済（本試験） ワンポイント解説

第1問	<p>倫理分野・リード文は「倫理」の第1問と同一で、設問は「倫理」第1問からの抜粋。</p> <p>問 1 倫理 03 と同一。アのボッティチェリは「春」や「ヴィーナスの誕生」を描いている。イの雪舟は水墨画の大成者である。ウのピカソはスペインの画家で、スペイン内乱でファシズムに抗議し、「ゲルニカ」を描いた。</p> <p>問 2 倫理 04 と同一。①は反動形成、②は代償、③は合理化の事例である。</p> <p>問 3 倫理 05 と同一。①60 歳以上では、項目イは項目ウよりも数値が低い。②項目アと項目エの間の数値の差は、50～59 歳よりも 60 歳以上のほうが小さい。④30～39 歳では、項目ウの数値は項目エの数値の 2 倍以下である。</p> <p>問 4 倫理 06 と同一。①の「自分と異質な人を憎悪」は引用文に記述がない。②の「自分と同等であることを憎悪」とあるが、引用文では「平等への愛着」とある。④の「自己と他者の差異を手がかりにして」とあるが、引用文には「差異を見ることは耐え難くなる」とある。③の「強大な権力の支配に進んで身を委ねる」とは、「権利が国家の唯一の代表者の手に次第するようになる。この主権者（権力者）は、…市民のうえに立つ存在であり、いかなる市民の嫉妬をかうこともない」という引用文の内容と合致する。</p> <p>問 5 倫理 08 と同一。単独者とは、世俗世界に生きながらも、精神的にはそれと決別して神の前にひとり立つ者をいう。権威主義とは、上位者の権威に服従し、下位者に高圧的な態度を指し、ファシズムを支える心理である。ホイジンガは人間をホモ・ルーデンス（遊戯人）と呼んで、文化の本質は遊戯にあると考えた。</p>
第2問	<p>倫理分野・リード文は「倫理」の第3問と同一で、設問は「倫理」第2問および第3問からの抜粋。</p> <p>問 1 倫理 14 と同一。①ウパニシャッド哲学は梵我一如を説くので、アートマンは否定されない。②六師外道とは、ブッダの時代の 6 人の自由思想家を指し、反バラモン教的かつ非仏教的であった。④バラモン教は多神教である。</p> <p>問 2 倫理 22 と同一。アの法然は、称名念仏によって一切衆生が往生できると主張しており、身分や能力に応じた念仏を考案していない。イの道元は、ただひたすら坐禅するという只管打坐によって、念仏・看経・公案の必要性を否定した。ウの栄西は、坐禅の他に戒律の遵守も主張しており、『興禅護国論』では禅の修行によってすぐれた人材を育成できると述べた。</p> <p>問 3 倫理 23 と同一。①時期・場所・身分に応じた実践は中江藤樹の思想である。③朝鮮の言語と文化を研究して、文化交流に尽力したのは雨森芳洲である。④佐久間象山の「東洋道德、西洋芸術」は東洋の道德（朱子学）とともに西洋の技術を学ぶべきである、という意味であって、朱子学批判ではない。</p> <p>問 4 倫理 18 と同一。孔子の重んじる礼の由来は、古代中国における祖先を祀る祭礼の儀式であり、祖先に対する祭祀儀礼も重視される。</p> <p>問 5 倫理 25 と同一。①契沖は、国学の先駆者であり、儒仏の解釈を退けて、古典それ自体の文献学的実証的研究によって古代日本人の精神を知るべきだと主張し、万葉集を研究した。②荷田春満は、契沖の万葉学に傾倒し、伊藤仁斎の古義学的方法論を用いて、日本古来の精神を明らかにしようとした。心学は石田梅岩の立場をいう。③本居宣長は、物事に触れて生じるありのままの感情を肯定したのであって、それを抑えようとしたのではない。④平田篤胤は復古神道を唱えたが、古代の文献の実証研究をしていない。</p>

第3問	問6	倫理 27 と同一。柳宗悦は、無名の職人による日用品に美を見だし、そのような作品を民芸と名づけた。なお、①のまれびとは、折口信夫の主張する日本の神の原像である。
	問7	倫理 28 と同一。本文の第四段落は、岡倉天心の西洋・東洋に共通する価値観の探求が主題であり、②のいう外来の文化の模倣ではなく、④にある外来文化の普遍性に対する称賛でもない。また③で述べている自国の価値観に基づく外来文化の批判的検討というのは、第四段落の内容であって、他の段落内容とは異なる。
		倫理分野・リード文は「倫理」の第4問と同一で、設問は「倫理」第2問および第4問からの抜粋。
	問1	倫理 16 と同一。①万物流転を説いたヘラクレイトスは、万物を支配する理法(ロゴス)の存在に言及している。③プラトンによれば、アイデアは想起によって認識可能である。④原子論は、自然哲学者のデモクリトスやヘレニズム時代のエピクロスが有名である。
	問2	倫理 29 と同一。①モンテーニュは、宗教戦争を批判する立場から、自らの正しさを疑うということによって独断と偏見を避け、謙虚かつ寛容になり、より深い真理探究に励むことを訴えた。
	問3	倫理 33 と同一。ア 敬虔なカトリック教徒であるトマス・モアは、私有財産のない理想社会を描いた『ユートピア』を著している。イ サルトルと人生を共に歩んだボーヴォワールは、『第二の性』で女性解放を訴えた。ウ ロールズは、公正としての正義を論じ、格差は社会的最弱者の生活改善につなげるべきだとする格差原理を主張した。
	問4	倫理 12 と同一。アウグスティヌスは、人間は原罪を負うので、神からの無償の恵みである恩寵によってのみ救われるのであり、その恩寵は教会を仲介として与えられる、と主張した。なお、④はルターの贖宥状批判である。
	問5	倫理 35 と同一。プラグマティズムのデューイは、学問や知識は人間が行動する際に役立つ道具である、という道具主義を唱えた。日常生活の困難のなかで、見通しを立てて未来を展望する能力を創造的知性(実験的知性)と呼び、このような問題解決を子どもは学習すべきだと『民主主義と教育』で主張した。
問6	倫理 36 と同一。①人間はすでにこの世界に投げ出されており、そして死へと向かう存在である、と主張したのは実存主義者のハイデggerである。②フッサールは現象学を唱えた。意識は自らを超えて外部世界へ向かう。③不条理は、実存主義作家カミュの概念である。人生は何ら意味のない、矛盾だらけの偶然的存在にすぎない、という考えである。④フッサールは、物事の妥当性を懐疑することは主張していない。	
問7	倫理 37 と同一。①「最も確実な自然科学を模範として」とあるが、第二段落では、カントは自然科学的必然性に囚われない自由の可能性を追求しており、第四段落では、法則主義的・機械論的ではない、ベルグソンの有機体的・進化的自然観が紹介されている。②「自然と精神や社会とでは領域が異なる」とあるが、第三段落では両者の一致が説かれている。④「時代に左右されない」ということは、どこにも言及されていない。	

第4問		<p>政経分野・リード文は「政経」の第1問と同一で、設問は「政経」第1問からの抜粋。</p> <p>問1 政経01と同一。文脈から判断できる平易な空欄補充問題である。</p> <p>問2 政経02と同一。正解となった③の「価格弾力性」とは、価格変動に対する需要や供給変動の大きさを示す言葉である。</p> <p>問3 政経03と同一。経済循環の図版問題は過去にも出題例がある。</p> <p>問4 政経04と同一。アは「外見的立憲主義」で日本、イは「与党と野党の席が向かい合って配置」でイギリス、ウは「人は自由で平等なものとして……宣言が議会で採択」でフランスと判断できる。イは教科書にも議場の写真が掲載されている。</p> <p>問5 政経05と同一。正解となった④の天皇の選択肢は、今上天皇が「天皇は国政に関する権能を有しません」と示しつつ生前退位の希望を表明されたため、出題が予想された事項であった。</p> <p>問6 政経06と同一。正解となった①は判断が難しい。「国会において……内閣不信任決議案が可決」と記されているため、国会の部分が誤りで衆議院であると判断すると誤りと言えそうだが、「国会において憲法の規定に基づき」を「国会の衆議院が」と読み替えると誤りではないと判断できる。②の公聴会については、国会法は、「総予算及び重要な歳入法案については、前項の公聴会を開かなければならない」(51条2項)と規定しており、すべての法律案で公聴会が義務づけられているわけではないため、誤りと判断できる。</p> <p>問7 政経07と同一。①のアメリカ発の金融危機はサブプライムローン問題を契機とするリーマンショックであるから2008年。②のバブル経済は1986～91年。④のプラザ合意は1985年。</p> <p>問8 政経09と同一。選挙権年齢の引き下げに伴い、成人年齢の引き下げが国会でも審議されようとしており、18歳以上の消費者教育が急務となっているため、出題が予想された事項である。正解が明白なので戸惑うことはないであろう。なお、クーリングオフの期間は原則8日間。マルチ商法は20日間である。</p>
第5問		<p>政経分野・リード文は「政経」の第3問と同一で、設問は「政経」第3問からの抜粋。</p> <p>問1 政経19と同一。文脈から判断できる平易な空欄補充問題である。なお、アラブとは基本的にはアラビア語を話す国々であり、北アフリカから中東地域を指す。イランは中東に所在するイスラム教国であるが、ペルシャ語を話す地域なのでアラブではないことも確認しておきたい。</p> <p>問2 政経21と同一。公共の福祉を理解していれば、問題なく解答できる。</p> <p>問3 政経23と同一。憲法改正手続を理解していれば、容易に解答可能である。安倍内閣が改憲に意欲的であることから、出題が予想されたテーマである。</p> <p>問4 政経24と同一。①の総選挙は1992年、②の総選挙は2005年、③の消費税導入は1989年、④のロッキード事件の立件は1976年。</p> <p>問5 政経26と同一。情報公開条例は山形県の金山町が国に先んじて1982年に制定しており、情報公開法は1999年になって制定されている。誤文の選択肢は、いずれも明白な誤りである。</p>

第6問		<p>政経分野・リード文は「政経」の第4問と同一で、設問は「政経」第4問からの抜粋。</p> <p>問1 政経28と同一。バブル経済を契機に直接金融の比率は向上したが、あくまでも日本においては間接金融が中心である。現金・預貯金の割合(2016年)は52.1%となっている。</p> <p>問2 政経29と同一。言葉の定義を問うだけの平易な問題である。</p> <p>問3 政経30と同一。公債依存度とは、歳入に占める公債金(新規の国債発行額＝借入金)の割合である。また、プライマリーバランスとは、歳入から公債金を控除した金額と歳出から公債金(国債の償還および利払費＝借入金の返済)を控除した金額とのバランスである。</p> <p>問4 政経32と同一。Aは1958年、Bは1998年、Cは2002年、Dは1993年である。</p> <p>問5 政経33と同一。交点がBに移動したということは、供給曲線が右下にシフトしたことを意味する。それをもとに判断していけばよい。</p>
-----	--	---